

分科会 9

地域で支える学校メンタルヘルスリテラシー教育

出演順 篁 宗一（聖隷クリストファー大学）
李載徳（学校MHL教育研究会）
幸村幸男（神奈川県立精神保健センター芹香病院）
井ノ口恵子（神奈川県立精神保健センターせりがや病院）
鎗田英樹（帝京平成大学）
深澤五郎（こすもす会）
加藤玲（新宿フレンズ）
鴨澤さおり（日本社会事業大学）
横山恵子（埼玉県立大学）
岡島智美（誠心会神奈川病院）
上松太郎（横浜市立大学院修士課程）

私たちの学校メンタルヘルスリテラシー教育研究会では、学校教育におけるこころの健康教育を実施しています。今回分科会では、前半は、講義形式で未だあまり知られていない活動の全容をお話しさせていただき、後半は、地域別の現状の報告をシンポジウム形式にて展開してみました。

○学校メンタルヘルスリテラシーとは？：篁

学校メンタルヘルスリテラシーとは何か？ 今なぜ必要なのか？ 私たちのプログラムの概要についてのお話をさせていただきます。

○オーストラリアにおける学校メンタルヘルス教育：李

メンタルヘルスリテラシー教育の先進国、オーストラリアのマインドマターズプログラムの紹介を中心に、日本における学校メンタルヘルス教育について考える機会提供を行いました。

○フィンランドにおける学校メンタルヘルス教育：松浦（東京医科歯科大学）

北欧フィンランドにおける、自殺予防対策に端を発した、アルコール依存症とうつ病の早期発見と治療を目指す取り組みと、セイナヨキ市の小学校で行われているメンタルヘルスリテラシー教育の実際について紹介しました。フィンランドの国民性をふまえ、子どもたちにどのような教育がふさわしいか、他国の先進例を吟味した部分や学校教員へのフォローアップについては、本国での取り組みにも重要な示唆を与えてくれます。

○学校メンタルヘルスリテラシー教育デモンストレーション：岡島

この時間は参加者の方に中学生になっていただき、実際の授業体験をしてもらいました。実施したのは中学1年生向けのプログラムで、この学校メンタルヘルスリテラシー教育の基盤となるプログラムです。

シンポジウム

神奈川県：幸村

神奈川県は県内の病院の看護師を中心に仕事の合間をぬって学校 MHL 活動に協力しております。現在の課題は実施校の開拓です。活動スタッフが教育委員会や中学校に出向きプログラムの説明を行い、学校の先生方を対象とした研修会の実施もしています。現在までに実施校は3校得られていますが継続実施につながらず苦難しています。

千葉県：深澤

学校での不登校の原因の80%は「いじめ」であると言われています。その90%は何らかの精神疾患であるという精神科医もいます。その不登校の生徒がそのままひきこもり状態になっているのです。社会との関わりが全くない状態です。いじめの問題を解決しないと駄目です。私の娘も病気になり、その原因はいじめでした。社会に出ても職場でいじめはあります。つまりは学校で何にも解決していないのです。

東京都：加藤

東京都では、清瀬市が全公立中学校で実施しているが、他ではまだまだ。新宿区は交渉の結果、2012 年末に教育委員会教育支援課の計らいで、校長会でメンタル・ヘルスの授業の必要性を話す。2013年7月「教員研修会」の分科会、3時間の枠で10名の教員に講演とグループワークをする。各学校での実施に漕ぎ着けたいものです。

島根・静岡県：篁

松江の教育を開始して約10年が経過する。現在は静岡を中心に中学校だけでなく小学校や高校、大学にも出かけるようになりました。これまでのリテラシー教育への個人的関心と歴史を話しました。

質疑・応答

秋田県教育にメンタルヘルスのことを位置づける取り組みをしているが、制度が整いつつある中、いまだ動こうとしない行政とは温度差がある。今日の報告が参考になった。

→ 各地域実情が異なるため、働きかける場所や人も異なる。必ず地域には理解者がいます。負けないように頑張ってください。

岡山の啓発教育に関連した実践の紹介をしてもらった。継続した取り組みとして、医療機関から隣接した教育機関に訪問している。偏見教育の内容について、具体的な提言を。

→ 偏見の軽減についての効果は、教育前後の効果評価によって認められている。特に当事者の方々との共同体験は、授業だけの場合よりも特に有効であった。

《上松太郎（横浜市立大学院修士課程）》